

# どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

5月号(NO44)通巻 194号

2022年5月10日(火)発行(毎月10日)

## 【農暦】夏野菜の定番のトマト、茄子、ピーマンを植える！

○新緑の今が一番である。田んぼは代掻きが終り、田植えもほぼ終わりに見える。緑一色の世界になる。コロナも、ウクライナも忘れない。ゴールデンウィークの人出が影響したのか、感染者数は増加している。ウクライナも経済制裁から兵器援助へと拡大している。停戦のための世論形成でなく、戦禍と軍備などの論調のニュースが繰り返されている。緊張拡大が煽られているように感じる。新緑の素晴らしい季節だが、暑い夏日になったと思うと寒い冬日？になる。半袖の次の日は厚手の長袖になる。人類の蛮行を天が叱っているのかも知れない。

○3日は憲法記念日で、“「二度と戦争をしない」約束をいかしたい。いまだから、これからも(4月11日時点1287団体)”の全面広告があった。そこに「安全保障上の懸念があるなら、戦車ではなく、対話で解決すべき」(オーストリア国連大使)が引用されていた。戦車に戦車では戦禍は拡大されるだけである。武力では解決にならない。

対話の世界世論こそ大事である。そこにしか、21世紀の人類の未来はないと思う。

○日本は平和憲法の前で75年間、戦争しなかった。だが、2022年の世界の軍事力ランキングで日本はアメリカ、ロシア、中国、インドの次の5位である。憲法9条で軍隊を保持しない日本が軍事大国になっている。9条外しで、戦争の出来る国にしてはいけない。平和憲法の理念こそが、平和の実現の世界の声とつながると思う。

○新緑が山肌に、道々に拡がり、田んぼは間もなく緑の絨毯に、この時季の畑は楽しい。夏野菜の定番のトマト、茄子、ピーマンを植える。今年も、薩摩芋とつる首カボチャの苗をご近所さんから頂いた。耕起し畝作りし苗を植えた。楽しい農作業も、最近は身体に出来る。だが、疲労感も心持ちいい。健康に繋がる様な気がする。これから草刈りの出番が多くなるが、農作業を励みたい。(了)

【楽農】<畑>トマト、キュウリ、茄子、ピーマンなどの苗、薩摩苗の紅はるか・シルクスイート植込。  
つる無し隠元、二十日大根、ルッコラの播種。  
絹さやの収穫。草刈りなど(電動草刈り機購入)。

【楽市】イベントなど；ふれあい大学(17日)松戸会(25日)ごみを考える会(28日)  
川柳の会(14・5日)詩吟例会は中止継続



<十二重>小さな庭で22日



<絹さや・じゃが芋>8日撮影

**【つぶやき=Tweet】 若者が将来に期待を持たない社会こそ寂しいものはない！**

○タマネギが1個260円もするとバードゴルフの仲間が話していた。驚いた。ウクライナ侵攻の経済制裁でのガソリンの高値を気にしていたが、7日の天声人語にタマネギが1個298円もする。ふだんの3、4倍の値で、タマネギたっぷりのカレーライスを急ぎょ献立を餃子に替えた、書き出しにあった。JAの話として産地の天候不順のせいだと、北海道の昨夏の日照り、佐賀の先月の雨だという。上海のロックダウンも影響していると、日照り、雨、コロナの3連弾が元凶だったという。

○天候不順は世界的に常態化している。コロナも自然の摂理だと思う。日本は農業に適した温帯にある。だが食料自給率は38%である。農業を大事にしていない。石油・石炭・ガスも輸入に頼っている。世界のいろいろな国に支えられている。そのことを忘れてはいけない。最近経済安保と称し、善隣友好ではなく、覇権国家的枠組みの外交に切り替えて来ているが、世界平和にも国益にも叶っていない。危険な外交政策だと思う。善隣友好でしかSDGSの達成も出来な



<フリージア>小さな庭で22日

い。人類の未来もない。地球温暖化の危機が迫っている。人類は争っている余裕はない。

○今まで目にすることが、少なかった「国際比較」を何故か最近みる事が多くなった。意識して見ているからかもしれないが。ジェンダー平等度で2021年120位。女性の働きやすさで主要29ヶ国中28位(英誌エコノミスト)、世界幸福度ランキングでは日本は149ヶ国中56位である。北欧が上位を占めている。官尊民卑の国?国会議員の報酬が米国の倍であることも知らない。地方自治体の議員の報酬も同様に高い。貧しい人の政治参加を容易にするための基準だと記憶しているが、弱者は中々政治家になれない。議員報酬や特権が大き過ぎると思う。井の中の蛙で意外と知らない。日本は上位あると勝手に思っている。国際比較で下位であることは知りたくないのかも知れない。都道府県別の比較だが幸福度で茨城は22位から11位(2018年)になっている。いいことだ。



<水田>車道から8日撮影

○4日朝のNHKテレビで、子ども若者の声、社会や政治にどう届けるか?をやっていた。子どもの精神的幸福度はオランダ、キプロス、スペインが上位で、日本は37位で、最下位はニュージーランドの38位である。自分の将来に期待が持てるかでは、期待が持てる45.2%、期待が持てない26.9%どちらでもない27.8%であった。若者が将来に期待を持たない社会こそ寂しいものはない。(了)

○断捨離考：廃棄継続を努力するのみ。

**【後記】ウクライナ停戦こそ最優先だが、農業を励みたい。【HP; Kogure農場に転載】**

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com